

令和8年度 第1回 犬山市図書館協議会 議事要旨

- 1 附属機関の名称
犬山市図書館協議会
- 2 開催日時
令和8年7月14日（火） 午後2時から午後3時10分まで
- 3 開催場所
犬山市立図書館2階 視聴覚室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委 員 清水裕樹、古川よし子、長谷川誠、森岡万朱衣、石田民子、小幡章子
 - (2) 執行機関 勝村教育長、加藤教育部長、阪下文化推進課長、大黒統括主査（図書館長）、池田統括主査、古谷事務職員
- 5 議題
 - (1) 報告事項
 - ①令和7年度図書館事業報告について
 - ②令和8年度図書館事業計画について
 - ③令和8年度営繕工事計画について
 - (2) 協議事項
図書館のICT化事業について
 - (3) その他
- 6 傍聴人の数
0人
- 7 内容
 - (1) 報告事項
 - ①令和7年度図書館事業報告について
(事務局から資料1を用いて説明)
古川副会長：貸出冊数の楽田の中に学校図書館の分も含まれているのか。
または、子どもが借りた分のみか。
事 務 局：楽田ふれあい図書館のみで学校図書館は含まれていない。

子どもだけでなく大人が借りた分も含まれている。

②令和8年度図書館事業計画について

(事務局から資料2～5を用いて説明)

③令和8年度営繕工事計画について

(事務局から資料6を用いて説明)

(2) 協議事項

図書館のICT化事業について

・電子書籍の導入について

(事務局から資料7を用いて説明)

古川副会長：小さな子ども向けの電子書籍も出ているが、紙の本で読んでもらいたい。電車の中でも紙の本を読んでいる人は少ない。資料の中のデメリットにもあるが、電子書籍は読書感が味わえない。色々な所から電子書籍に関する資料は貰っているが、導入する場合の注意点としては、どんな本を入れるのかがとても大事で、きちんと選書をして欲しい。

清水会長：子どもは動画をよく見ている。タブレット、スマートフォンで絵本を読む子どもはどのくらいいるのか、実感としてご存知であれば教えてもらいたい。

古川副会長：どんぐり文庫に来る子は紙の本が好き。子どもがタブレット、スマートフォンで本を読むことはない。子どもが図書館で本を借りるか借りないかは、図書館の司書がどれくらい密に子どもに接しているかどうかだと思う。子どもは自分のために本を選んでくれたと思うととても喜ぶ。図書館を底上げするのは、いいレベルの本を入れるのではなく、何回でも読んでももらえるような本を選書して入れることである。

長谷川委員：メリット、デメリットしっかり分かったうえで使い分ける事が必要。教員として社会科の資料を団体貸出で何十冊も借りたことがあるが、今はインターネットで調べるのが主流。しっかりアナログとデジタルを使い分けて、教員の研修と会議で周知したうえで子どもが必要なものを取捨選択しなければならない。電子図書の導入によって本に触れる機会は増えると思う。

小幡委員：導入している他市町に電子書籍サービスを利用している人の年齢層を調べる必要があると思う。日常で、タブレットを親が子どもに見せている。図書館が子どものメディア依存を助長していることにもなりかねない。それに手を貸していると思われてはいけない。電子書籍は大人はいいと思うが、子どもの健やかな育ちを阻害しないことを取り決めて進めていかないと危険である。個人的には、中学生までは、電子書籍は必要ないと思う。電子書籍は本棚に並べられない。自分の支えになる数冊の本と出会って、それを読み込み、将来自分が落ち込んだ時にあの本が自分を支えて

くれたと思う事が大事である。図書館がその事を把握したうえで電子書籍を導入して欲しい。

清水会長 : 自分も研究で、電子書籍しかない物を使用していて、著作権の管理の関係からそれをコピーすることはできない。色々メリットデメリットがある。物としてあるのかないのかそれが一番大きい。他市町の先行事例をもとに引き続き色々検討して欲しい。

石田委員 : 自分の子が小学2年の時に愛読していた本1冊、子が大学生になり家を出る時に本棚になかったため、子に本をどうしたのか聞いたところ、本も一緒に持って行ったと言った。本の力はすごいと思ったことがある。

(3) その他

①令和8年11月24日(火)の臨時開館について

(事務局から内容について口頭で説明し、特に意見はなく了承)

②図書館2階視聴覚室を展示スペースとして使用することについて

(事務局から内容について口頭で説明し、特に意見はなく了承)

③議題に関わらず意見や質問について(会長より)

小幡委員 : 子ども図書館まつりの図書館司書によるおはなし会を開催したのが良かった。

古川副会長 : 図書館事業はボランティアが主ではない。司書がもっと前に出て、私達ボランティアを指導する立場になって欲しい。

小幡委員 : 司書が自分のスキルアップのため、本の専門家だと認めてもらうためにも司書が前に出る機会を設ける事が大事である。

古川副会長 : 図書館側が主になってボランティアを引っ張っていくと図書館の顔ができる。ボランティアは自分の得意な事をやっているに過ぎない。子どもが少なくなっていく中、図書館として何を見せていくか、長いスパンで何を目指してやっていくかが重要である。

清水会長 : 事務局は、委員の意見を参考に図書館事務を進めていただきたい。

④電子書籍についての意見や質問

加藤部長 : 電子書籍の話でみなさんに素晴らしい話を聞かせていただきましたが、電子書籍は頭に入らないと思いませんか。本をめくって気になる所に付箋を貼って見返したりすると、内容を結構覚えている。本を読んで理解するという意味では紙の方が断然いいんでしょうか。

古川副会長 : ビデオで授業を聞くとその場では分かった気になるけれど、家に帰ると頭に残っていない。授業を受ける時は、できるだけ紙に書くようにしている。そうしないと頭に残らない。

小幡委員 : 10年くらい前の学術論文で、電子媒体と紙媒体を読むの

と脳の働きの違いを取り上げた論文があったと思う。それを調べてみてはどうか。

清水会長 : 私達自身が成人している子と接している。長谷川先生はもっと小さい子と接しているが、われわれの世代でどこまで理解できるのか、われわれと言っているのか、このあたりの感覚が難しい。

古川副会長 : 電車の中だと紙を持って歩くのは億劫だからなのか、紙の本を読んでいる人は少ない。

清水会長 : 今の若い子はAIがあって当たり前、こういった協議会という場で大人が判断しているのか考える必要がある。

事務局 : 司書に聞いた話だが、小さい子が本を借りてその本をスワイプしたと聞いた。その話を聞いた時に、子が日常的にタブレットを持っていて、公共のものが導入するのは慎重に行くべきだと思った。学校現場もそうですが、デジタルコンテンツなしでは生き残れない。バランスを取りながら提供していくところは、われわれも信念を持ってやらないといけないと思った。

長谷川委員 : 別の話だが、シャープペンシルの使用についても、われわれは日常使用しているのでいいと思うが、発達段階の子に筆圧の問題で使いがいいのかという問題がある。デジタルもそうだと思う。夏休みに本を10冊まで借りれるが、小1の子が持って帰るのは大変、デジタルだと手軽に借りられるので、デジタルはいいという考え方もある。

清水会長 : 学校教育としてどうやって子供たちにデジタル情報とアナログ情報とどう向き合ってもらうか、検討していただきたい。

古川副会長 : AIでお礼状をくれた子がいる。きれいな文書かもしれないが、心がない。電子書籍は34%でまだそんなにたくさん導入しているわけではない。

事務局 : 例えば江南市は、日本に住んでいればカードが作れる。電子書籍は、市民しか利用できないと言うカテゴリーを組んでいる。サービスを提供するかしないかで大きな分岐点がある。犬山市に住んでいるとサービスが受けられないことになる。

令和8年8月17日

上記議事内容に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)